

1 加藤民吉の経歴

民吉の経歴

加藤民吉は明和9年（1772）に瀬戸の窯元、大松窯の次男として生まれました。当時の瀬戸では窯屋を継げるのは実子・養子問わず一人のみであったため、次男の民吉は窯屋を継げず、別の仕事することとなります。そのため、当時津金文左衛門（胤臣）主導で新たに作られていた熱田前新田へ父吉左衛門共に熱田へ引っ越し農作業に従事します。津金は南京焼（染付焼）に興味を持っており、農作業に不慣れな二人を見出し窯屋であることが分かった自身の研究を手伝うようにと二人に提言します。

津金の指導の下、染付焼を生産することとなった民吉父子は、試行錯誤を繰り返していき、やがて試



加藤民吉肖像画（瀬戸蔵ミュージアム蔵）

作に成功します。津金は熱田に窯を築いて磁器生産に乗り出そうとしますが、それを知った瀬戸の窯屋がそれでは自分たちが困窮してしまうと反対。結果、窯は瀬戸に築くこととなりました。そうして新しくはじまった磁器は次男以下の者もその職に就けることとし、また陶器窯屋からの転業も可としたため、磁器生産は陶器生産をしのぐようになりました。

このような経緯で瀬戸で磁器生産が開始されましたが、素地の白さ・呉須の発色・釉薬の技術などが九州に比べたら劣っていたため本場九州へ修業へ行くこととなります。白羽の矢が立ったのが民吉で、菱野村出身で東向寺（熊本県天草市）和尚の天中和尚を頼り、文化元年（1804）に天草へ渡りました。

天草などにおいて自分の身分を明かし、窯屋に身を寄せ天草の技術を学んだ民吉は、文化4年（1808）に瀬戸へ戻ります。民吉が学んだ技術によって瀬戸の磁器生産技術は飛躍的に向上し、民吉は磁祖として祀られるようになりました。

2 加藤民吉と瀬戸

① 磁祖加藤民吉出生之地（西谷町）

巨大で見事な松が印象的であったため大松屋敷と呼ばれた民吉の生家があった場所に、昭和12年（1937）9月に尾張徳川家19代当主徳川義親により書かれた石碑が建立されました。

また、石碑の隣には磁器の釉薬に使われており、九州に自生する柞いすの木が、民吉の修業を偲び植えられています。柞の木は民吉が九州から持ち帰ったもののひとつとも言われています。



磁祖加藤民吉出生之地碑と柞の木

② 窯神神社（窯神町）

1. 窯神神社

登り窯を象った社殿で、磁祖・加藤民吉が祀られています。

もともとは、民吉が染付焼の完成を神に感謝し、さらなる事業の繁栄を祈願するため、日頃信仰していた神々（秋葉山大権現、天満威徳天神、金毘羅大権現）を窯神として祀り遙拝したいと文化9年（1812）に建立を藩庁へ願い出たのが始まりで、願い出から12年を時を経て、文政7年（1824）に民吉個人の遙拝所として許可され、当時の民吉の窯場後方に建立されました。この時、民吉は病床にあり、許可されてから2か月も経たない文政7年7月4日に53歳で亡くなりました。民吉の死後、文政9年（1826）には民吉も合祀され、磁祖として祀られるようになりました。

元々の社殿は木造でしたが、大正14年（1925）に放火され全焼してしまいます。その後は陶彦社の旧祠が移されました。現在の社殿は、昭和39年（1964）に改築されたものです。令和3年には改修工事が行われ、それに伴い遷座祭も執り行われました。

現在の窯神神社では地元住民を中心に市内陶磁器関連団体などで構成される「崇敬会」が管理運営を行っています。



社殿



加藤民吉像

2. 飲水思源の碑

中国の故事成句「井戸の水を飲む際には、井戸を掘った人の苦勞を思え」の意。

民吉が九州で修業した際にお世話になった菱野出身の天中和尚がいた東向寺（熊本県天草市）が昭和34年（1959）に開山300年を迎え、それを記念し、また天中和尚の恩に謝するため瀬戸市から「民吉翁の碑」を贈りました。その返礼として昭和37年（1962）11月東向寺のある本渡市（現在の天草市）から天草陶石に「飲



飲水思源の碑

水思源」と彫られた碑が贈られました。当初は瀬戸市役所正面の植栽に建てられていましたが、平成11年（2007）の民吉修業200年事業の一環として本場所に移設されました。



東向寺（熊本県天草市）



民吉翁之碑（東向寺境内）

3. 残心の杉

文化元年（1804）から九州に修業に出た民吉が福本仁左衛門家での修業を終え、文化4年（1807）1月7日に佐々を去る際に記念として杉を植えました。それが樹齢200年の大木となり、佐々では民吉の心情を察し、「残心の杉」と呼ばれています。そして、平成16年（2004）に崇敬会をはじめとした「民吉修業200年記念実行委員会」が結成され、200年記念事業の一貫で、佐々の残心の杉の枝を取り寄せ、挿木・育成し窯神社及び市内小中学校に植樹されました。



残心の杉（長崎県佐々町）



残心の杉（窯神社境内）

4. 津金胤臣父子頌徳碑

瀬戸での磁器開発を支えたのがこの津金文左衛門胤臣・庄七父子です。胤臣は勘定奉行・熱田奉行を歴任した人物で、民吉父子を見出した人物でもあります。胤臣は享和元年に亡くなってしまいますが、その遺志は庄七が継ぎ、民吉の九州修業が叶いました。

この碑は津金父子の功績を称えるため、昭和13年（1938）3月に名古屋陶磁器輸出組合等によって建立されました。

5. 加藤唐左衛門高景翁頌徳碑

津金胤臣父子と同じく民吉の才能を見出し、庄屋として瀬戸の窯業の発展に貢献した人物です。「一子相伝性」や「ロクロー挺制」の中、次男以下に染付焼の職を解放し、磁器製法の進歩を目指し、民吉の九州修業を支援しました。また、染付焼開発のため、原材料の確保や発見に力を注ぎ、私事を顧みず私財を投じて業界全体の発展に奔走しました。

この功績を後世に残すためにも窯業関係者の願のもと、この碑は昭和61年（1986）9月20日に愛知県陶磁器工業協同組合により建立されました。その後、平成10年（1998）に9月に改修されています。



津金胤臣父子頌徳碑



加藤唐左衛門高景翁頌徳碑

津金文左衛門胤臣経歴

『瀬戸市史 陶磁史篇三』より作成

和暦	西暦	内容
享保12年9月9日	1727	平田院北の屋敷にて金方御納戸役津金文左衛門胤忠の長子として生まれる
宝暦4年閏2月22日	1754	文左衛門と改名
明和元年11月4日	1763	御勘定奉行仰せ付けられる
明和3年1月28日	1766	御勘定奉行元方役仰せ付けられる
安永5年8月26日	1776	男児がいなかったため弟の新兵衛の惣領、同姓繁之丞（庄七と改名）の養育を仰せ付けられる
安永10年1月30日	1781	繁之丞が養子となる
寛政3年5月25日	1791	熱田奉行仰せ付けられ、御船手奉行を兼ねる旨仰せ出される
寛政12年7月8日	1800	熱田前新田御築立のため地鎮祭を行い、御首請に取り掛かる
享和元年1月	1801	新田ができる
享和元年3月	1801	国中の村々から百姓移住。瀬戸村から移住した吉左衛門・民吉父子を指導して染付焼の試焼を始める
享和元年	1801	熱田前新田は国益になると褒美として御馬一頭拝借
享和元年9月	1801	熱田新田古堤の斜面を利用して染付焼の窯を築く工事中病にかかる
享和元年12月19日	1801	病死。享年75歳

加藤唐左衛門経歴

『瀬戸市史 陶磁史篇三』『陶器古伝記』より作成

和暦	西暦	内容
安永元年	1772	瀬戸村加藤藤左衛門の子として生まれる 幼名安左衛門
寛政12年	1800	享和2年まで瀬戸村庄屋を務める
享和元年	1801	瀬戸村において染付焼開発を行う
享和2年	1802	丸窯取立場所を願い出る
享和3年	1803	石粉ハタキ水車建設を願い出る
文化元年	1804	窯屋取締役に任じられ、給金4両・苗字御免となる 染付焼御蔵入れ御通帳、「尾張」木印が尾張藩より渡される
文化3年	1806	一代帯刀御免
文化9年	1812	本業焼方より離れ、染付焼取締役となる
文政元年	1818	名古屋御蔵元、諸国支配人と図り永納金制度を創設する
文政6年	1823	取締役仰せ付けられ、三人扶持となる 御勘定所・細工所御用達役となる
文政7年	1824	宗門自分一札が渡される
文政8年	1825	御深井丸御庭焼に仰せ付けられる 有栖川親王へ楠木鉢を献上する 染付焼物御用達に仰せ付けられる
文政9年	1826	本業取締役兼を仰せ付けられる
天保3年	1832	没する。享年61歳

6. 磁祖加藤民吉翁碑

大正11年（1922）9月に建立されており、民吉の伝記が記されています。1,117文字の長文で市内の碑中で最長のものとなります。



磁祖加藤民吉翁碑

7. 磁祖墓碑

元は宝泉寺にあったもので、陶祖墓碑と一所に安置されていましたが、宝泉寺の座禅堂を建てる際に窯神社へと移設されました。



磁祖墓碑

③ 陶土採掘場（瀬戸キャニオン）

瀬戸市の地盤を形成する地層は、今から1千万年以上前から約200万年前にかけて堆積してできた「瀬戸層群」という砂礫と陶土の地層で構成されています。瀬戸層群の中にはやきものづくりに欠かせない「蛙目」「木節」といった良質な粘土とガラスの原料となる「珪砂」が豊富に含まれる「瀬戸陶土層」があり、瀬戸の多種多様なやきものを生み出す源となっています。

陶土の採掘方法は何種類もあり、古くは人力で地表に近いところの土を採っていました。大正期ごろになり、やきものが大量につくられるようになると、地表に出ている粘土だけでは足りなくなり、横や立に穴を掘り採取する坑道掘りが行われました。しかし、坑道掘りは昭和36（1961）年に危険を伴うため禁止されてしまいます。そのため、階段状に表土層を取り除いていく露天階段掘りが主流になりました。この鉱山は露天掘りで掘削されています。その風景の雄大さがグランドキャニオンに似ていることから瀬戸のグランドキャニオン（瀬戸キャニオン）とも呼ばれています。



陶土採掘場（2005年撮影）

3 瀬戸における磁器生産

1. 御蔵会所跡

瀬戸で磁器生産が開始されると、その生産・流通経路も整備されました。加藤唐左衛門により生産と販売を藩の支配下に置き円滑な取引と販路の拡大を目的とした「蔵元制度」が開始されると、蔵物を納めるため御蔵会所が建造されました。御蔵会所には呉須や木灰を保管する蔵も立てられ、原材料は御蔵会所から支給する形がとられました。

御蔵会所には水野代官所の役人が詰めて生産を管理し、焼き上がった製品を取り出す際にも立ち会いました。当初は瀬戸・品野・赤津の三ヶ村に御蔵会所が建てられましたが、文政9年(1826)に瀬戸の蔵所(現在の瀬戸蔵の場所)に統合され、大規模な建て替えが行われています。

明治以降には役場や警察署、瀬戸陶器館などが建設され、行政・文化の中心地となっていました。



御蔵会所跡（現在の瀬戸蔵）

4 古文書から見る加藤民吉

広く流布している民吉の伝承に、「民吉が産業スパイとして九州へ趣き、技術を習得した後は妻子を捨てて瀬戸へ帰ってきた」というものがあります。しかしこれは歌舞伎のために作られたお話であり、史実とは異なります。古文書から加藤民吉について読み解くと、史実がわかります。

民吉は有田では修業を出来ていない

民吉は有田で産業スパイを行ったといわれることがありますが、実際には有田で修業を行えていないことが以下の史料から読み解けます。

(前略)

夫より有田山へ参錦手窯を一見し申ハ私ハ天草より参候者
当地の絵業ハ格別ニ候私モ絵業持参仕候迎持合品指出す
何卒御試被下候様頼置又重而可参ト申歸リ窯焼以後
参候処先日ノ絵業格別不宜ト申外ノ焼物を見せ候ニ付
民吉よりハ仁左衛門方にて焼候器を見せ候得ハ有田山の人
右ノ薬天草に沢山ニ有之只候ハ、我等同道見せ候儀ハ難成
哉ト申し候故答申には私ハ今日御近辺迄使ニ来ル故御同道
申儀ハ難致紺青薬御座候山ハ福有の医者扣にて此医
者染焼被致候此方の薬の仕方御差図被下候ハ、右の報
を以取入其上薬を送被下候様可申入候得共容易に薬堀取
候儀ハ出来不仕由申候有田人申ハ我等錦手の仕方包ます
差図可申候得とも窯仲間より相洩候時ハ一命にて相掛候就
難相成旨申聞候

(後略)

(前略)

それより有田山へ参り錦手窯を見て「私は天草より来まし
た。有田の絵業は格別です。私も絵業を持ってきまして、
一度お試しいただきたいと思ひます。」と申し、窯が焼けた
ぐらに行つたところ、「先日ノ絵業はよろしくない」と言
われ、有田の焼物を見せてくれた。民吉が佐々で焼いた器
を見せたところ、有田山の人が「この薬が天草に沢山ある
のなら、共に行き見せていただくのは難しいか」と問われ、
「私は今日この近辺に使いで来ているので、共に行くのは難
しいです。この薬がある山は福連木の医者の控え山で、こ
の医者は染焼をやっております。こちらの絵業について教
えていただければあなたが行きたいと言う旨と絵業をお送
りしますが堀り取ることはできません。」と。有田山の人
言うには「錦手の仕方を教えたことが窯仲間より漏れた場
合は命に関わるので難しい」

(後略)

「染付焼起源」(『民吉街道』より)

この抜粋した部分は、民吉が長崎県佐々町の窯屋、福本仁左衛門家で修業を行った後、熊本県天草市へ帰る際に有田山へ寄つたところの話です。民吉は自分を天草から来た人物であるとして上絵付の技法を教えてほしいとしています。有田の窯屋からは教えたことが他へ漏れた場合は命に係わるから教える事はできないと回答し、民吉は内山の堤惣右衛門のもとにて細工を30日ばかり教わり天草へ戻りました。

つまり、民吉は結局上絵付についてを教わることはできず、また逗留することもできずに去っていることがわかります。

なお、他にも民吉が産業スパイではなかったことが分かる史料もありますが、そちらは8月6日(土)から9月11日(日)に瀬戸市美術館で開催されます「加藤民吉の真実—天草における九州修業—」にて展示していきます。ぜひお越しください。

また、民吉生誕250年を記念して、加藤民吉ホームページを作成しました。前年度に行ったフォーラムの資料などを掲載しており、今後も充実させていく予定です。



今後のスケジュール

<6月>

せと歴！ せとまちの瀬戸永泉教会礼拝堂を訪ねる

日 時：6月26日（日） 午後2時～4時

集合場所：瀬戸永泉教会

解散場所：同上

内 容：保存修理が終わって公開される永泉教会礼拝堂と旧桜町をめぐります。

参加費：無料

定 員：20人

※申し込み方法等、詳しくは広報せと5月1日号に掲載します。

瀬戸市歴史文化ホームページの新設

瀬戸市の歴史文化に関するホームページ「愛知県瀬戸市歴史文化基本構想」では、これまでに開催した「まちめぐり」の資料や瀬戸の古い町並みなどの写真、さらに昨年度刊行した瀬戸市歴史文化ガイドブック「千年続く誇りを巡る旅」、瀬戸を知るテーマ別ガイド「のんびりじっくりせとマップ」、瀬戸の百科事典「瀬戸ペディア」などが閲覧・ダウンロードできます。ぜひご活用下さい。

アドレス：<http://seto-guide.jp/>



主催：瀬戸市・(公財) 瀬戸市文化振興財団